

令和 3 年 6 月 11 日現在

機関番号：56203

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K13386

研究課題名(和文)十八・十九世紀を中心とした怪異文芸と学問・思想・宗教との総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive research on "kaidan literary arts" and humanities, thought, and religion focused on the eighteenth and nineteenth centuries

研究代表者

門脇 大 (Kadowaki, Dai)

香川高等専門学校・一般教育科(高松キャンパス)・講師

研究者番号：30634133

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は「近世怪異文芸を学問・思想・宗教との関係から捉え直し、通史的な読解を行うことにより、従来とは異なる視座から文学史・文化史の再編を行う」という主目的のもと、近世怪異文芸を従前とは異なる視座から読み解くことによって、関連諸分野を含めた文化史を新たに捉え直す試みであった。18・19世紀を中心として、怪異文芸と上述の諸分野との関係を具体的な資料をあげて論証した。さらに、近世期から明治期へと移行する際の怪異文芸作品に着目して、研究ならびに一般社会への紹介・公開を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

18・19世紀を中心とした怪異文芸と学問・思想・宗教との関連を具体的に検証し、明らかにした。これまでの文学研究においては、ほぼ等閑視されてきた石門心学関係の資料を収集・整理し、山東京伝の作品や怪異文芸に通ずる表現や思想が認められることを具体的に明らかにした。また、近世期から明治期へと継承される説話の展開を追跡して、時代思潮の一端を明らかにした。研究成果の社会還元の一部として、著名な江戸怪談の注釈や現代語訳、解説などを一般に向けて公開した。

研究成果の概要(英文)：The main purpose of this study is to "reorganize the history of literature and culture from a different perspective by reconsidering the mysterious literary arts of the modern age from the relationship with scholarship, thought, and religion and reading them historically." It was an attempt to reconsider the cultural history including related fields by reading the modern mysterious literary arts from a different perspective. Focusing on the 18th and 19th centuries, he demonstrated the relationship between mysterious literary arts and the above-mentioned fields with concrete materials. Furthermore, focusing on the mysterious literary works during the transition from the early modern period to the Meiji period, we conducted research and introduced and released them to the general public.

研究分野：日本近世文学

キーワード：日本文学 近世文学 怪異 怪談 心学 牡丹灯籠 四谷怪談 山東京伝

1. 研究開始当初の背景

これまでの自身の研究は、「弁惑物」と称される作品群および周辺分野に関するものであった。「弁惑物」とは、18世紀中期に集中的に刊行された怪異現象・怪異譚の暴露・否定・説明を行う作品群の総称である。この研究を通して、近世期における怪異文芸の実態を探求し、近世期の諸学問・思想・宗教と近世怪談との相関関係を具体的に明らかにしてきた。研究の進展に伴い、18・19世紀の怪異文芸と学術・思想・宗教との共時的な繋がりを明らかにし、それらを通史的に俯瞰することによって、近世怪異文芸の展開と意義を文化史的に再構築することの可能性を見出した。

上述のように、自身が従前から行ってきた近世中期以降の怪異文芸と学術・思想・宗教との関係に着目した研究を進展させることにより、従来の研究では不明瞭であった怪異文芸の通時・共時的な広がり、他分野との具体的な影響関係を明らかにしようと考えた。このことにより、文学作品と他分野との具体的な影響関係、および近世期の文化史の一端を究明することができると考えた。

2. 研究の目的

本研究の主目的は、18・19世紀の怪異文芸と学術・思想・宗教との具体的な関係性を明らかにし、さらにそれらの通史的な展開をたどることによって、怪異文芸を軸とした文化史を明示するというものである。この目的を達成するために、次のように細分化した研究目的を設定した。

- 1.従来の研究では十分に検討されてこなかった、石門心学などの通俗的な教訓思想と怪異文芸との関係を明らかにして、18・19世紀の怪異文芸に通底する思想を究明する。
- 2.書承関係にとどまらず、より広い視座から怪異文芸を検証し直すことによって、通時・共時的な伝承の具体相を明らかにする。
- 3.おもに19世紀中・後期の怪異文芸、および関連分野に着目することで、前近代と近代との結節点における文化史の展開を明らかにする。

以上の研究目的をそれぞれ遂行することによって、従来とは異なる観点から18・19世紀の怪異文芸と周辺分野との関係性を明らかにし、その通史的な展開を究明することを目的とした。

3. 研究の方法

2. 研究の目的に記したように、本研究はおもに3つのテーマを設定して研究を遂行した。それぞれの具体的な研究方法は以下の通りである。

1.石門心学を中心とした18・19世紀における通俗的な知の基盤の解明

石門心学資料の総合的研究、および怪異文芸に通底する思想基盤の解明を行う。これまでの自身の研究により、石門心学関係の基礎資料の収集・整理は整いつつある。さらなる資料の充実を進めつつ、資料の分析を行い、怪異文芸との接点を明らかにする。具体的には、山東京伝の草双紙や考証随筆、十返舎一九の諸作に認められる教訓思想との関係を明らかにする。このことにより、18・19世紀における通俗的な知の基盤の一端を解明し、同時代の怪異文芸に通底する思想の一側面を明らかにする。

2.説話・伝承として伝わるオーラルな資料の背景と伝播の究明

京都を中心とした上方の説話・伝承の背景と伝播の様相を具体的に究明する。都市・京都という定点を設定し、近世初期から現代まで上方に伝わる説話・伝承を捉え直し、近世怪異文芸の淵源と変遷の様相を究明する。具体的には、現代まで口碑として伝わる京都各地の伝承の起源を探り、その成立の背景を僧侶・文人らの交流から明らかにし、京都各地の地域的特色と併せて究明する。この研究により、文化の生成と展開の様相を通時・共時的な視座から明らかにする。

3.前近代と近代の怪異文芸の断絶と継承の考究

明治時代初期に刊行された通俗的な教訓書・啓蒙書に着目した研究を行う。また、自身がこれまでに行ってきた怪異文芸・化け物の変遷に関する研究を継続・発展させる。近世期の怪異文芸が明治期に流入する様相を明らかにし、その背景にある思想の変遷を解明する。具体的には、近世怪異文芸における化け物の展開を個別に検証し、それらがどのような思想・文化状況によって醸成され、推移していったのかを考究する。この研究により、前近代から近代へと時代が大きく変化する時期の文化事象が、どのような断絶と継承を見せるのかを明らかにする。

以上の3テーマは、密接な関係を持つテーマであり、同時に研究を進めることで相乗効果が十分に期待できるものである。個別に研究を進めつつ、それぞれのテーマの研究成果を統合して、研究の主目的を達成する。

4. 研究成果

研究目的に沿って研究を進めたことにより、18・19世紀を中心とした怪異文芸と関係諸分野との関連を個別具体的に明らかにした。自身のこれまでの研究をふまえて、文学史や怪異観の変遷を視野に入れた、時代と分野を横断した研究を行うことができた。

石門心学に関しては、従来の文学研究ではほぼ取り上げられてこなかった。基礎資料を収集・整理して分析することにより、文学作品との具体的な接点を見出して、その意義を明らかにした。18・19世紀における通俗教訓の展開に関して、新たな知見を提出することができた。

また、通時的な口碑伝承の広がりや文学作品との関連について、怪異文芸を軸に具体的に考察を進めることによって、幕末から明治期にかけて通底する時代思潮の一端を明らかにすることができた。

近世期の著名な怪異文芸作品を具体的に取り上げて考察することにより、関連諸分野との関係や、その文学史的意義を究明した。

以上の研究成果の具体は、5. 主な発表論文等に記す通りである。

なお、本研究は個別の成果をあげることができたものの、全体を総括するに至らなかった。その理由は、研究成果を総括して公表する時期であった2020年初頭から新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が起こったからである。また、2020年度に自身の異動があったため、研究環境の大きな変化が起こったことも大きな理由の1つである。これらの事情により、調査・研究を十分に行うことが不可能となり、研究成果をまとめて公表することができなかった。収集・分析してきた研究成果に関しては、今後公表していく予定である。

5. 主な発表論文等

公表した研究成果は以下の通りである。研究会などでの発表は省略した。

[雑誌論文] (計 1件)

- 1) 「狐で騙る話」、『朱』、伏見稲荷大社、64号、pp. 202-216、2021年、査読無し。

[学会発表] (計 2件)

- 1) 「十八・十九世紀の「心」の認識と表象—心学と文学の接点を探る」、日本文学協会第38回研究発表大会、日本文学協、金沢大学(石川県金沢市)、2018年7月。
- 2) 「江戸の幻術と、その使い手たち—果心居士の物語を中心として—」、北白川EFEOサロン2019-2020、北白川EFEOサロン、フランス国立極東学院京都支部(京都府京都市)、2019年12月。

〔図書〕（計 6 件）

- 1) 『猫の怪』、白澤社、2017年7月、pp.224、共著。第2部第3章「馬場文耕「三浦遊女薄雲が伝」一猫の報恩物語」pp.118-128、第2部第4章「猫の報恩譚」pp.129-143、第2部コラム3「江戸怪談の猫一猫と狸と」pp.163-168を担当。
- 2) 『江戸の学問と文藝世界』、鈴木健一編、森話社、2018年2月、pp.328、共著。「心学「鬼の相」をめぐって—十八・十九世紀の心学伝播の一例」pp.273-296を担当。
- 3) 『俗化する宗教表象と明治時代』、堤邦彦・鈴木堅弘編、三弥井書店、2018年2月、pp.314、共著。「怪火の究明—人魂・狐火・火の化物」pp.131-156を担当。
- 4) 『〈江戸怪談を読む〉牡丹灯籠』、白澤社、2018年7月、pp.208、共著。第2章「浅井了意「牡丹灯籠」」pp.25-40を担当。
- 5) 『怪談牡丹燈籠・怪談乳房榎木』、KADOKAWA（角川ソフィア文庫）、2018年7月、pp.416。三遊亭円朝作・堤邦彦解説・門脇大注釈。
- 6) 『輪切りの江戸文化史』、勉誠出版、2018年10月、pp.376、共著。「文政八年（一八二五）—爛熟する庶民文化が示す江戸の深奥」pp.269-292を担当。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 門脇大	4. 巻 64
2. 論文標題 狐で騙る話	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 朱	6. 最初と最後の頁 202 - 216
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 門脇大
2. 発表標題 十八・十九世紀の「心」の認識と表象 心学と文学の接点を探る
3. 学会等名 日本文学協会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 門脇大
2. 発表標題 江戸の幻術と、その使い手たち 果心居士の物語を中心として
3. 学会等名 北白川EFE0サロン2019 - 2020
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 横山泰子・早川由美・門脇大ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 白澤社	5. 総ページ数 224
3. 書名 猫の怪	

1. 著者名 横山泰子・門脇大・今井秀和・斎藤喬・広坂朋信	4. 発行年 2018年
2. 出版社 白澤社	5. 総ページ数 208
3. 書名 牡丹灯籠	

1. 著者名 三遊亭円朝（堤邦彦解説・門脇大注釈）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 KADOKAWA	5. 総ページ数 416
3. 書名 怪談牡丹燈籠・怪談乳房榎	

1. 著者名 鈴木健一・田中康二・門脇大ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 384
3. 書名 輪切りの江戸文化史	

1. 著者名 鈴木健一・田中康二・門脇大ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 森話社	5. 総ページ数 328
3. 書名 江戸の学問と文藝世界	

1. 著者名 堤邦彦・鈴木堅弘・門脇大ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 316
3. 書名 俗化する宗教表象と明治時代	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------